

家庭ごみの有料化制度について

I 家庭ごみの有料化制度等に関する調査・分析報告

- (1) 先進事例における減量効果の分析
- (2) 有料化制度の導入により見込まれる減量効果
- (3) 家庭ごみ有料化制度の中核市における導入・検討状況

II 家庭ごみの減量化に向けた啓発事業

- (1) 令和6年度の事業報告
- (2) 令和7年度 of 主な取組み

III 家庭ごみ有料化に向けた基本的な考え方（別冊）

I 家庭ごみの有料化制度等に関する調査・分析報告

(1) 先進事例における減量効果の分析

令和6年度第1回富山市環境審議会でお示した「中核市の導入状況（1人1日あたりの廃棄物量の変化等）」について、有料化の減量効果を正確に比較できるよう、次のとおり比較条件を整理し、家庭ごみの減量効果が、「①比較的小さかった都市」と「②大きくみられた都市」について、その要因を分析しました。

<調査概要>

- ・環境省「一般廃棄物処理実態調査」のデータを使用。
- ・減量効果は、「可燃」「不燃」「資源物」の総排出量の減少率で比較した。
- ・有料化前の2年間については、一時的に排出量が増加する可能性があるため、導入前3年度を基準年度とし、また、年度途中において有料化した自治体もあることから、効果を正確に比較するため、全て導入翌年度の排出量で比較した。
- ・リサイクル率や資源物搬入量の変化、各自治体の公表データ等から分析した。

① 減量効果が比較的小さかった都市

中核市名 (有料化年月)	家庭ごみ有料化による排出量の変化等			
	排 出 量	導入3年度前（基準年）	導入翌年度（減量率）	導入5年後（減量率）
		782g（基準値）	716g(▲8.4%)	716g(▲8.4%)
八戸市 (H13.6)	【手数料単価】0.70円/ℓ 【リサイクル率】H10:12.3% → H14:10.9% 【資源物搬入量】H10:11,633t → H14:11,598t ◎制度導入時の分別品目は缶、びん、ペットボトル、古紙のみ。 ◎制度導入に合わせて実施した併用施策は無し。 ◎不適正排出対策として、ボランティアごみ袋を作成し、無料配布。			

② 減量効果が大きくみられた都市

中核市名 (有料化年月)	家庭ごみ有料化による排出量の変化等			
	排 出 量	導入3年度前（基準年）	導入翌年度（減量率）	導入5年後（減量率）
		775g（基準値）	613g(▲20.9%)	541g(▲30.2%)
佐世保市 (H17.1)	【手数料水準】4.0円/ℓ 【リサイクル率】H13:11.1% → H18:13.7% ※合併前の数値と比較 【資源物搬入量】H13:2,948t → H18:3,163t ※合併自治体合計 ※900ℓまでは手数料を無料（一定量無料型）とする料金体系を採用。			

中核市名 (有料化年月)	家庭ごみ有料化による排出量の変化等			
鳥取市 (H19.10)	排出量	導入3年度前(基準年)	導入翌年度(減量率)	導入5年後(減量率)
		798g(基準値)	614g(▲23.1%)	558g(▲30.1%)
	【手数料水準】1.3円/ℓ 【リサイクル率】H16:12.1% → H20:18.5% 【資源物搬入量】H16:5,989t → H20:7,854t ◎プラスチックごみのリサイクルを平成17年度から開始。 ◎プラスチックごみについても、指定袋(0.67円/ℓ)を導入。			
下関市 (H15.6)	排出量	導入3年度前(基準年)	導入翌年度(減量率)	導入5年後(減量率)
		806g(基準値)(注)	663g(▲17.7%)	669g(▲17.0%)
	(注) H16年度に合併。合併前の各自治体の排出量より算出。 【手数料水準】0.67円/ℓ ※リサイクル率及び資源物搬入量については、平成16年度の市町村合併で比較可能な統計データ無し。 ◎有料化と同時に、プラスチック製容器包装、びん、缶、ペットボトル、古紙等の資源物の分別回収を開始。 ◎びん、缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装についても、指定袋を導入(0.4円/ℓ)。 ※古紙は対象外。			

※リサイクル率は、事業系一般廃棄物も含む。

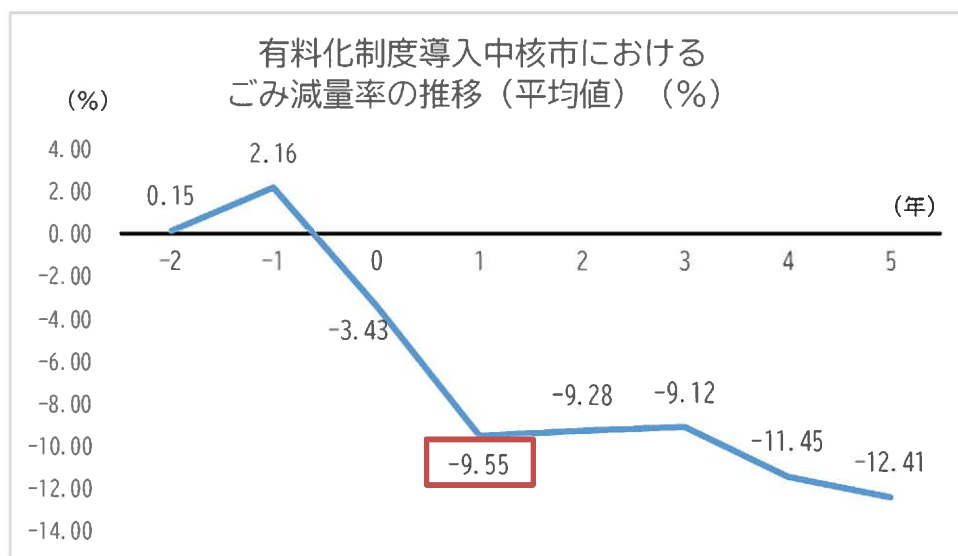
分析結果

- ・ 手数料水準が高くなるほど、ごみの排出量削減と再資源化の効果が高くなる傾向がある。(資源物を有料化の対象とする自治体では、資源物を含む家庭ごみの総排出量が減少する傾向にある)
- ・ 有料化制度導入と併せて、新たな分別収集体制を整備することで、再資源化が促進され、減量に繋がる傾向がある。(減量効果が大きく表れる)
- ・ 一定の減量効果(ごみの減量化と再資源化)が見られた自治体においては、戸別収集の開始や資源集団回収に係る報償金の増額といった併用施策を実施。
- ・ 不法投棄や不適正排出対策については、導入前から既に監視パトロール等の対策を実施しているが、新たに防犯カメラの設置や啓発用看板を作成し配布するといった事業を実施している自治体も見られた。

(2) 有料化制度の導入により見込まれる減量効果

有料化制度を導入している中核市19市のうち、導入年度が平成5年度と古く統計データが確認できなかった久留米市及び一定量無料型を導入している佐世保市を除く17市のごみの減量率について、導入3年前の排出量を基準に調査しました。

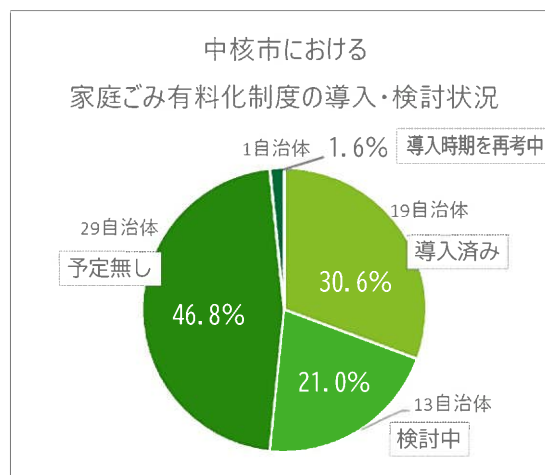
(1) で示したとおり、自治体ごとに減量率の変化に差はあるものの、全ての中核市で一定の減量効果が確認でき、平均では導入翌年度に約9.6%、導入5年後には約12.4%と減量効果の継続が見られました。(手数料単価の平均1.13円/ℓ)



(3) 家庭ごみ有料化制度の中核市における導入・検討状況

令和7年3月末現在で、家庭ごみ有料化制度を導入している中核市は、62自治体中19市となっています。また、中核市へのアンケート調査では、家庭ごみ有料化制度の導入を「検討している」と回答した自治体は13市となっており、その理由として、「ごみの更なる減量に取り組む必要があるため」「処理施設の老朽化による修繕費等の捻出が必要であるため」「最終処分場候補地の選定が困難であるため」といった意見がありました。

導入予定の無い(検討していない)自治体については、まずは、プラスチック製品の分別収集の開始や分別の徹底に向けた啓発事業の実施に取り組むといった意見があった一方、家庭ごみ有料化はごみの減量につながる施策としての認識もあり、調査・研究を行っている自治体や、今後検討を進めると回答した自治体があった。



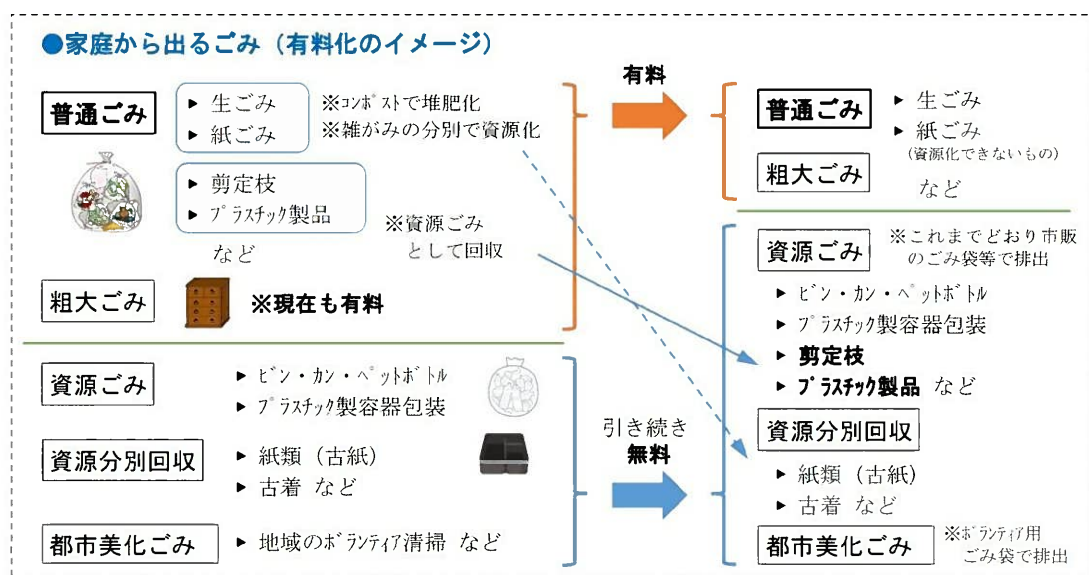
<参考：岐阜市の例（令和8年10月導入予定）>

岐阜市は、令和7年6月市議会において条例改正を行い、令和8年10月からの専用の有料ごみ袋の導入が決定しました。（環境審議会からは、平成24年に有料化を促す答申が出されていました。）

令和7年6月策定の「岐阜市ごみ処理有料化計画」を基に、岐阜市の制度内容について整理しました。

有料化の方式	有料指定（専用）ごみ袋方式			
料金体系	排出量単純比例型			
対象ごみ	普通ごみ（可燃） ※刃物や食器類などの不燃系のごみについては、現在、粗大ごみ処理袋（有料）を使用。 ※資源ごみについては、対象外。			
専用ごみ袋の 容量・手数料	手数料：1．1円／ℓ			
	ごみ袋の容量	45L	30L	15L
	ごみ袋1枚あたりの手数料〔税込〕	50円	33円	16円
	手数料額（10枚入／袋）〔税込〕	500円	330円	160円

出典：「岐阜市ごみ処理有料化計画」



出典：「岐阜市ごみ処理有料化計画」

※プラスチック製品の再資源化は、令和10年度末までの実施を予定。

<参考>

現在、岐阜市を含む4市町で構成される岐阜羽島衛生施設組合において、新たなごみ処理施設を整備しており、令和9年4月からの稼働を予定している。

Ⅱ 家庭ごみの減量化に向けた啓発事業

(1) 令和6年度の事業報告

① ダンボールコンポスト普及啓発事業

富山市消費生活教室の参加者を対象に、ダンボールコンポストの作り方や管理方法について説明するとともに、ダンボールコンポストに必要な材料を配付して、参加者が各家庭において生ごみの堆肥化や家庭菜園等での自家消費を体験した。

参加者へのアンケート調査や堆肥の成分調査を行い、その結果は、ダンボールコンポストの作り方と併せて、市ホームページに公開するなど、市民への周知啓発を行った。



② 地域循環型生ごみ堆肥化モデル事業

令和6年10月、富南会館（熊野地区センター）に生ごみ処理機（処理能力30kg/日）を設置し、地域住民が家庭で出た生ごみを投入し、分解後の液体（液肥）を、地域の公共施設の花壇や家庭菜園に活用するモデル事業を開始した。

今後、生ごみ処理機の利用者と投入量の増加、地域での活用促進に向けて、自治振興会と連携し、事業を進める。

令和6年度実績（稼働98日）

- ・延べ利用者数
209世帯（平均2.1世帯/日）
- ・投入量
282kg（平均2.9kg/日）



③ プラスチック資源一括回収の状況（令和6年4月開始）

<参考> 前年比での排出量の比較（単位：トン）

	R5 年度	R6 年度	増減
燃やせるごみ	74,330.69	72,439.33	▲1,891.36
燃やせないごみ	4,189.26	3,711.79	▲477.47
プラスチック資源	2,341.69	2,565.37	223.68

④ 家庭ごみの減量を考えるワークショップ

小学生を含めた幅広い年齢層の方々にご参加いただき、日常で感じているごみの減量や分別に関する困りごと、課題を共有し合い、自分たちに何ができるかを考えた。

当日の参加者から出た意見は、「グラフィックレコーディング」として取りまとめ、9月に開催したフォーラム等で、広く市民の皆さんに共有した。

○ 第1回：参加者16名

日時 令和6年8月4日（日）

13:00～15:00

場所 大久保ふれあいセンター「大研修室」

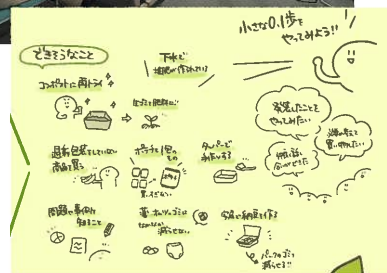


○ 第2回：参加者15名

日時 令和6年8月18日（日）

13:00～15:00

場所 富山市民プラザ「AVスタジオ」



⑤ 家庭ごみの減量化・有料化を考えるフォーラム

有識者による講演や著名人を交えたトークセッションなどを行うフォーラムを開催し、約200名の方が参加した。参加者一人一人が家庭ごみの減量化に向けて、どのように取り組むべきなのかを考えた。

日時 令和6年9月28日（土）13:00～15:00

場所 富山市民プラザ アンサンブルホール

- 内容
- ・富山のごみ減量化に向けた取り組みの紹介
 - ・基調講演「自分ごとのごみ減量と有料化」
講師：東洋大学名誉教授 山谷 修作 氏
 - ・お笑い芸人・スギちゃんによるトークショー
 - ・トークセッション

トークゲスト：村井美樹氏（タレント）、
山谷修作氏、藤井市長



**家庭ごみの減量化・有料化を
考えるフォーラム** 参加無料
(要申し込み)

聞いて、覚えて、考える。
一緒にこの減量について、
行動を起こしましょう！

9月28日(土) 13:00～15:00(12:30開場)

会場 富山市民プラザ アンサンブルホール 富山大学前6番14号

定員 280人程度

申込方法 事前に、市ホームページから
お申し込みください。 [お申し込みはこちら](#)

イベント内容

- 1 富山のごみ減量化に向けた取り組みの紹介
- 2 基調講演
「自分ごとのごみ減量と有料化」
講師 東洋大学名誉教授 山谷修作氏
- 3 お笑い芸人・スギちゃんによる
トークショー
お笑い芸人 スギちゃん
- 4 トークセッション
MC 村井美樹氏 × 東洋大学名誉教授 山谷修作氏 × 富山市長 藤井 昭久
このセッションでは、自分ごとのごみ減量と有料化について、各分野の専門家と市民が
意見交換を行い、自分ごととして捉え、行動を起こすためのヒントを探ります。

主催 富山市民プラザ 後援 富山県 富山大学 富山商工会議所 富山県商工労働政策センター 富山県環境政策センター 富山県環境政策センター 富山県環境政策センター

主催・お問い合わせ 富山市民プラザ 後援・協賛 076-443-2281

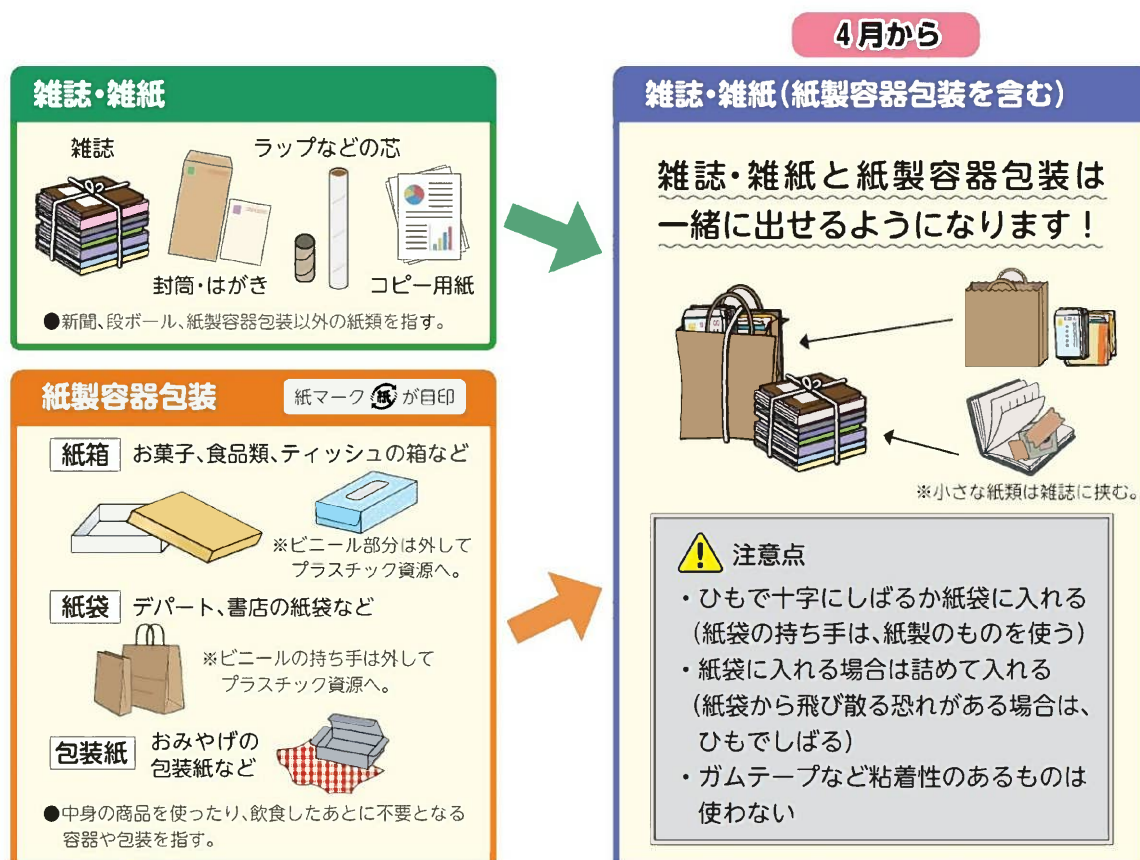
TOYAMA

(2) 令和7年度の主な取組み

① 紙類の分別品目変更（4月から開始）

分別時の負担の軽減と紙類全体の回収量の増加、回収効率の改善を図るため、紙類の分別品目のうち、菓子箱や包装紙などの「紙製容器包装」を、「雑誌・雑紙」に含めて出せるように変更した。

変更に伴い、本年3月に広報とやまによる周知や市の分別ルールを記載した「家庭ごみと資源物の分け方・出し方」の改訂版の全戸配布により、市民への周知啓発を行った。



② ダンボールコンポスト講座の開催

令和6年度に開催した講座を、小学生以上の幅広い世代を対象に実施する。

日 時 令和7年8月23日（土）

10:00～11:00

場 所 富山市エコタウン交流推進センター

定 員 30組

<内容>

- ・市内実践者による講演と実演
- ・基材の配布と組立て



③ トートバック型コンポスト講座の開催

ダンボールコンポスト講座に加え、まちなかの集合住宅など、限られたスペースでも取り組みやすいトートバック型コンポストの啓発講座を、新たに開催する。

開催日 令和7年10月4日（土）
10:00～11:30（予定）
場 所 富山市まちなか総合ケアセンター
定 員 30名



<内容>

- ・専門家による講演、取り組み方の紹介
- ・基材の配布

④ 家庭ごみの減量化を考えるワークショップ

大学生以下の若い世代を対象に、カードゲーム「ごみゼロゲーム」を実施し、ごみの減量化に向けた意識の醸成を図るとともに、富山市における家庭ごみの現状を捉え、どのような取り組みが今後必要となるのかを、さまざまな視点から考えるワークショップを開催する。

開催日 令和7年11月（予定）
場 所 富山市まちなか総合ケアセンター
定 員 30名

<内容>

- ・カードゲーム「ごみゼロゲーム」体験
- ・専門家による講演
- ・対話形式のワークショップ



引用：（一社）ゼロ・ウェイスト・ジャパン HP